

2026年3月期

決算説明会資料

2026年5月11日
ヤマハ株式会社



決算発表のポイント

決算概要

【26/3月期 通期実績】

- ・中国の市況低迷、欧米でのプロフェッショナル音響機器の高需要一巡も、楽器の販売回復、為替の円安により売上収益は前年並み
- ・課題事業の構造改革、価格適正化を進めるも、米国追加関税の影響、部品・原材料費の高騰、デジタルミキサー販売減によるミックス変化等により事業利益は減益

業績予想

【27/3月期 通期予想】

- ・外部環境に不透明感あるも、売上収益は全地域で成長軌道に戻し増収を予想
- ・中期的視点で成長投資を進めつつ、構造改革効果出し、価格適正化により、調達コストアップ等の外部要因を打ち返し、事業利益は増益を予想

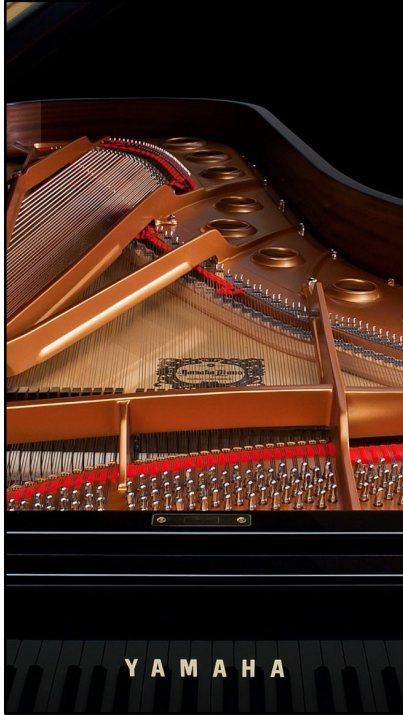
それでは、山浦より2026年3月期決算についてご説明をいたします。まず、決算の概要です。

2026年3月期は、中国市場の市況低迷、欧米におけるプロフェッショナル音響機器の高需要が一巡したものの、楽器事業において販売回復が進んだこと、また為替が円安基調で推移したことにより、売上収益は前年並みとなりました。

一方、課題事業の構造改革や価格適正化を進めましたが、米国追加関税の影響、部品・原材料費の高騰、デジタルミキサーの販売減によるミックスの悪化等により、事業利益は減益となりました。

27年3月期については、外部環境に不透明感があるものの、売上収益は全地域で成長軌道に戻し増収を予想しています。

また、中期的視点での成長投資を進めつつ、構造改革の効果出しと価格の適正化により、調達コストアップ等の外部要因を打ち返し、事業利益は増益を予想しています。



1. 決算概要

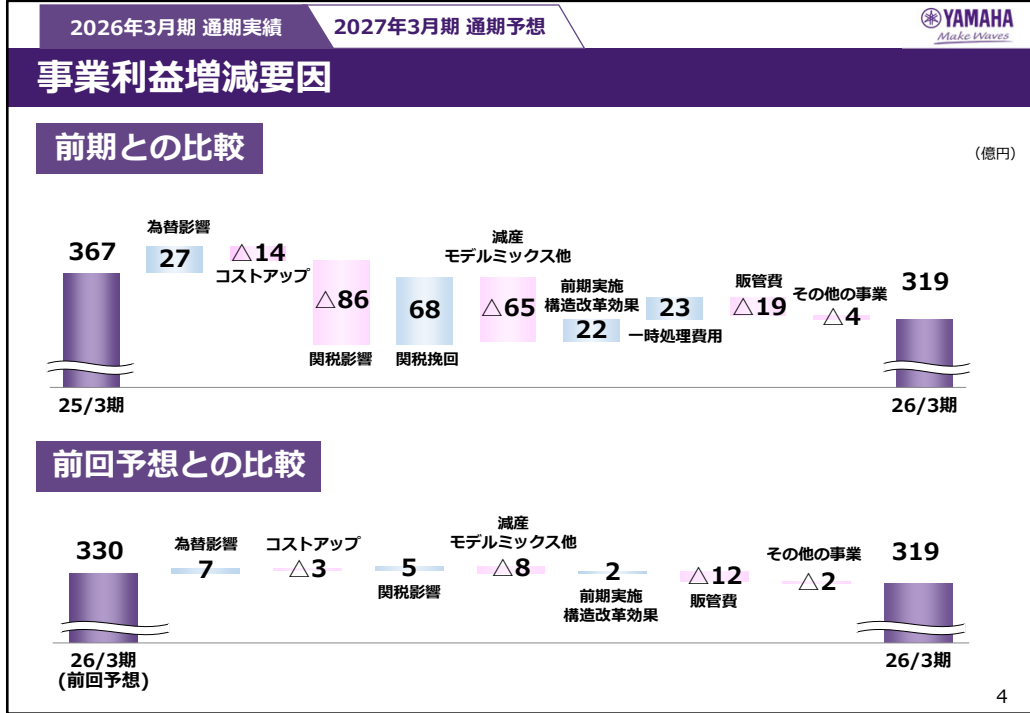
| 2026年3月期 通期実績 | | 2027年3月期 通期予想 | | YAMAHA Make Waves | |
|--------------------------------|---------------|----------------------|-------------------------------|----------------------|--|
| 業績概要 | | | | | |
| (億円) | | | | | |
| | 25/3 | 26/3 | 前期比 | | |
| 売上収益 | 4,621 | 4,653 | 33 | +0.7% ^{*2} | |
| 事業利益 (事業利益率) | 367 (7.9%) | 319 (6.9%) | △48 | △13.2% | |
| 当期利益 ^{*1} | 134 | 237 | 104 | +77.7% | |
| ^{*1} 親会社の所有者に帰属する当期利益 | | | | | |
| 為替レート (円) | | | | | |
| US\$ | 153 | 150 | | | |
| EUR | 164 | 173 | | | |
| | | | ^{*2} △0% (為替影響除く) | | |

3

続いて、26年3月期の通期実績です。

売上収益は4,653億円、事業利益は319億円、事業利益率6.9%、当期利益は237億円です。

為替レートはこちらの資料に示したとおりとなります。



事業利益の増減要因についてご説明します。
 前期の367億円を起点に、為替の追い風に加え、前期に実施した構造改革効果が一定程度寄与したものの、米国の追加関税の影響、原材料や部品価格の高騰、そしてデジタルミキサー販売減少によるモデルミックスの悪化が大きな減益要因となり、結果として319億円での着地となりました。

また、前回予想との比較では、販管費が予想を上回ったことによる下振れでの着地となりました。
 これは主に北米の第4四半期売上が想定を大きく超え、売上連動の変動費が増加したことによるものです。

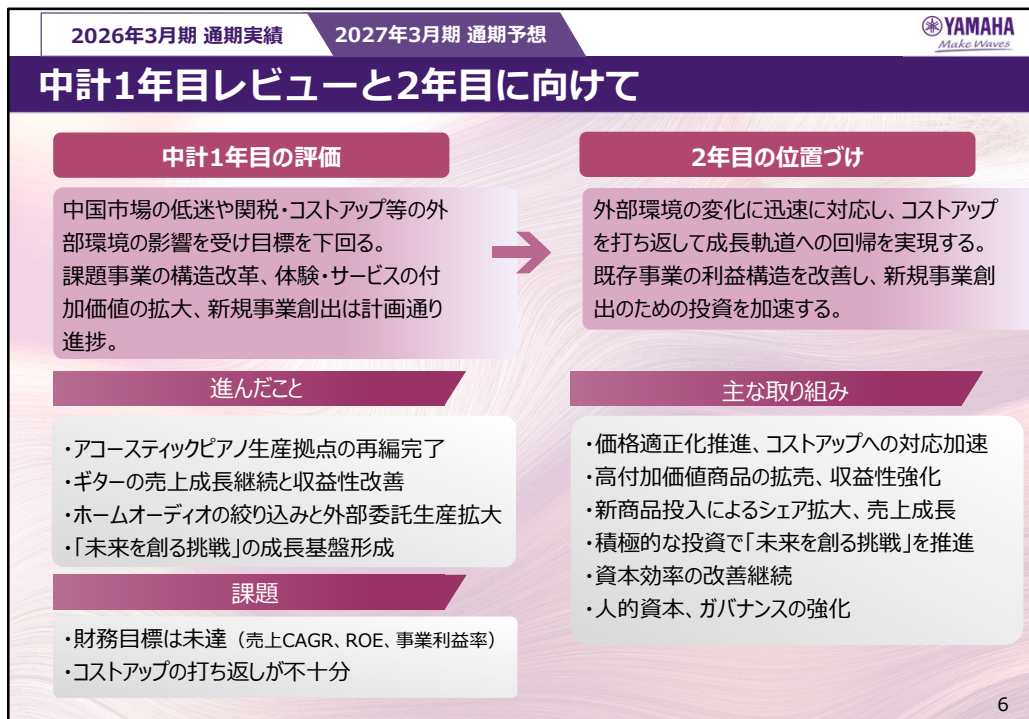
事業別業績

(億円)

| | | 25/3 | 26/3 | 前期比 | 為替影響 |
|--------|-------|-------|-------|-------|------|
| 楽器事業 | 売上収益 | 2,961 | 3,049 | 88 | 28 |
| | 事業利益 | 221 | 212 | △9 | 23 |
| | 事業利益率 | 7.5% | 7.0% | △0.5P | |
| 音響機器事業 | 売上収益 | 1,478 | 1,424 | △53 | 15 |
| | 事業利益 | 143 | 108 | △36 | 3 |
| | 事業利益率 | 9.7% | 7.6% | △2.2P | |
| その他の事業 | 売上収益 | 182 | 180 | △3 | △1 |
| | 事業利益 | 3 | △1 | △4 | 1 |
| | 事業利益率 | 1.6% | △0.6% | △2.2P | |

5

事業別の業績でございますが、こちらについては改めてご覧いただければと思います。



2026年3月期は中期経営計画「Rebuild & Evolve」の1年目にあたります。中国市場の低迷や関税・コストアップなどの外部環境の影響を受け、目標を下回る結果となりましたが、課題事業の構造改革や新規事業創出は計画通り進捗しています。

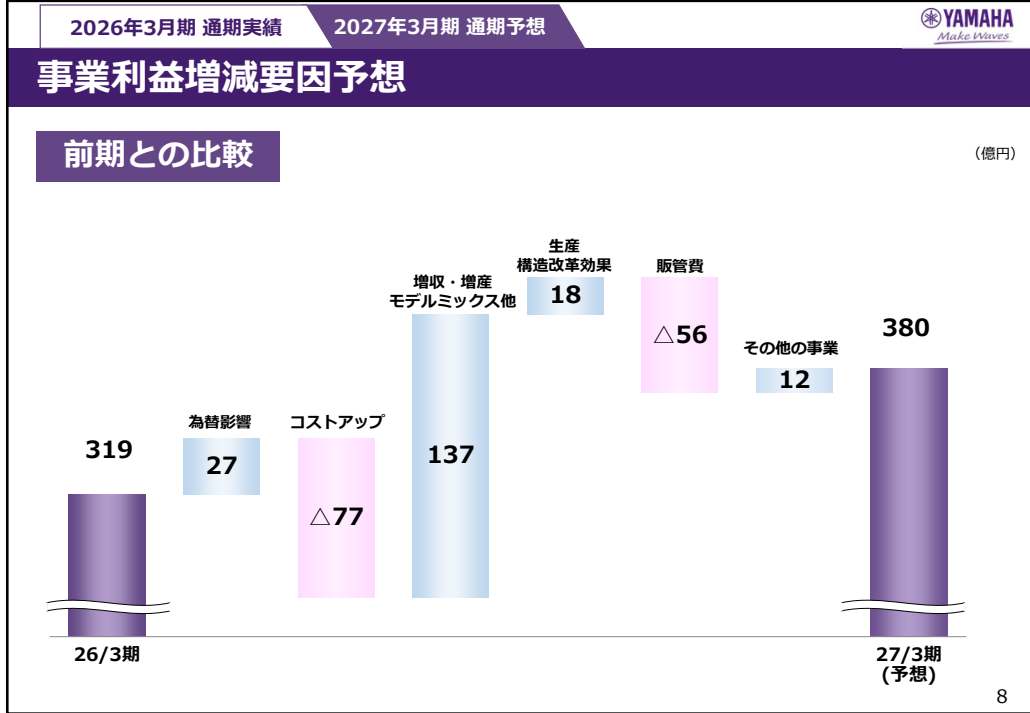
課題としては、各種コストアップの打ち返しが不十分であったことが挙げられます。

2027年3月期は、外部環境の変化に迅速に対応し、コストアップを克服しながら成長軌道への回帰を目指します。

また、既存事業の利益構造を改善し、新規事業創出のための投資を加速していきます。

| 2026年3月期 通期実績 | | 2027年3月期 通期予想 | | YAMAHA Make Waves | |
|------------------------------------|---------------|-----------------------|--------------------------------------|----------------------|--|
| 業績予想 | | | | | |
| | 26/3 | 27/3 (予想) | 前期比 | | |
| 売上収益 | 4,653 | 4,900 | 247 | +5.3% ^{*2} | |
| 事業利益 (事業利益率) | 319 (6.9%) | 380 (7.8%) | 61 | +19.2% | |
| 当期利益 ^{*1} | 237 | 280 | 43 | +18.0% | |
| <small>*1 親会社の所有者に帰属する当期利益</small> | | | <small>*2 +3.1% (為替影響除く)</small> | | |
| 為替レート (円) | | | | | |
| US\$ | 150 | 155 | 売上収益 | 約9.1億円 | |
| | | | 利益 | 約1.1億円 | |
| EUR | 173 | 180 | 売上収益 | 約6.6億円 | |
| | | | 利益 | 約4.1億円 | |

続いて、27年3月期の通期業績予想です。
 売上収益4,900億円、事業利益380億円、事業利益率7.8%、当期利益280億円を見込んでいます。
 為替レートはUSドル155円、ユーロ180円を想定しています。また為替レート1円の変動による影響額は資料の右下に記載のとおりです。



27年3月期の事業利益増減要因としては、26年3月期の319億円を起点に、コストアップ▲77億円、販管費増加で▲56億円を見込む一方、為替の影響で+27億円、増収・増産およびモデルミックス等で+137億円、生産構造改革の効果+18億円、その他の事業で+12億円として、380億円を見込んでいます。

2026年3月期 通期実績

2027年3月期 通期予想



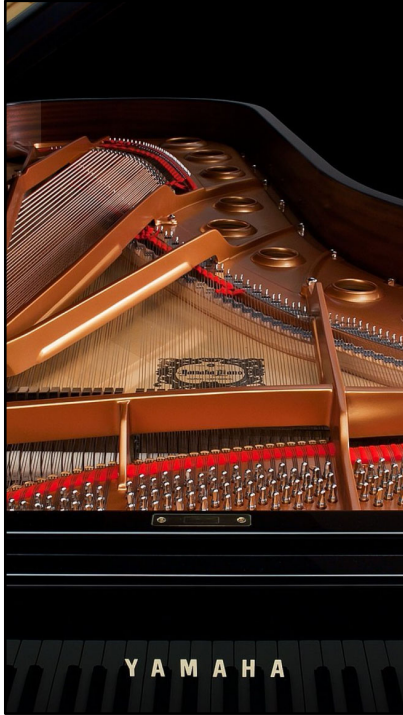
事業別業績予想

(億円)

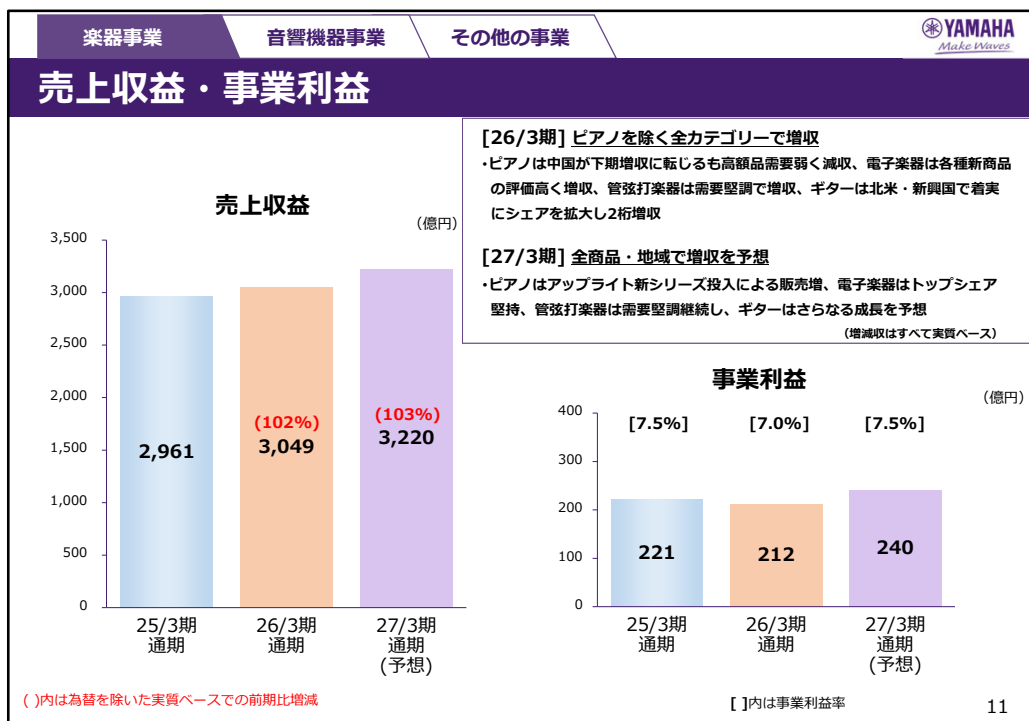
| | | 26/3 | 27/3 (予想) | 前期比 | 為替影響 |
|--------|-------|-------|--------------|-------|------|
| 楽器事業 | 売上収益 | 3,049 | 3,220 | 171 | 71 |
| | 事業利益 | 212 | 240 | 28 | 17 |
| | 事業利益率 | 7.0% | 7.5% | +0.5P | |
| 音響機器事業 | 売上収益 | 1,424 | 1,500 | 76 | 27 |
| | 事業利益 | 108 | 130 | 22 | 11 |
| | 事業利益率 | 7.6% | 8.7% | +1.1P | |
| その他の事業 | 売上収益 | 180 | 180 | 0 | 2 |
| | 事業利益 | △1 | 10 | 11 | △1 |
| | 事業利益率 | △0.6% | 5.6% | +6.2P | |

9

事業別の業績予想でございますが、先ほど同様こちらについては改めてご覧いただければと思います。

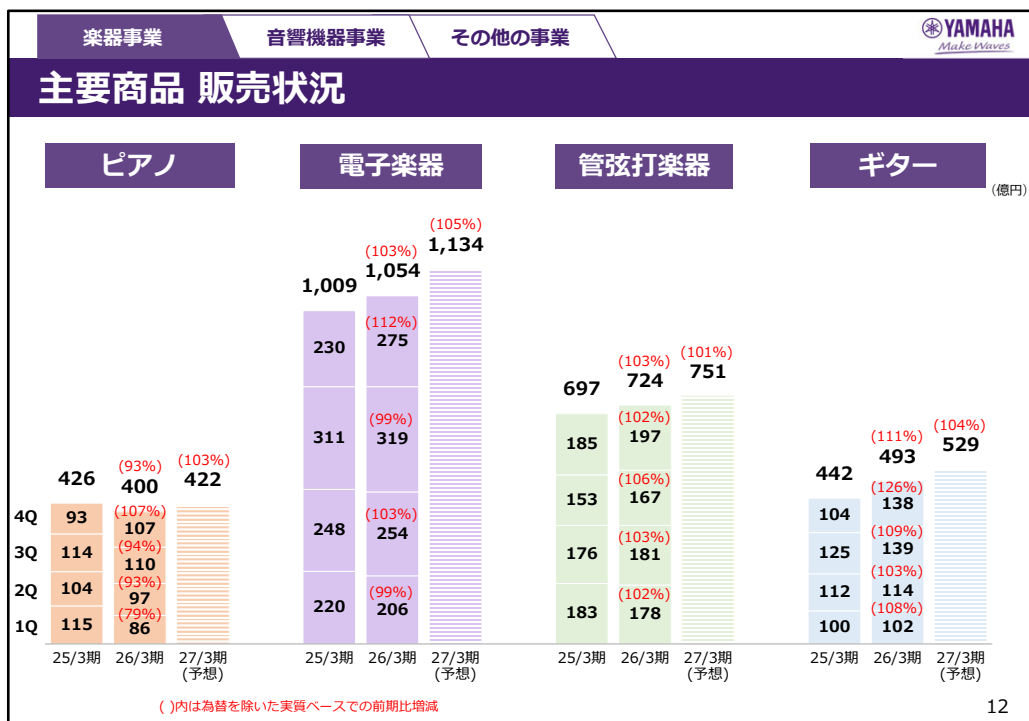


2. 事業別概要

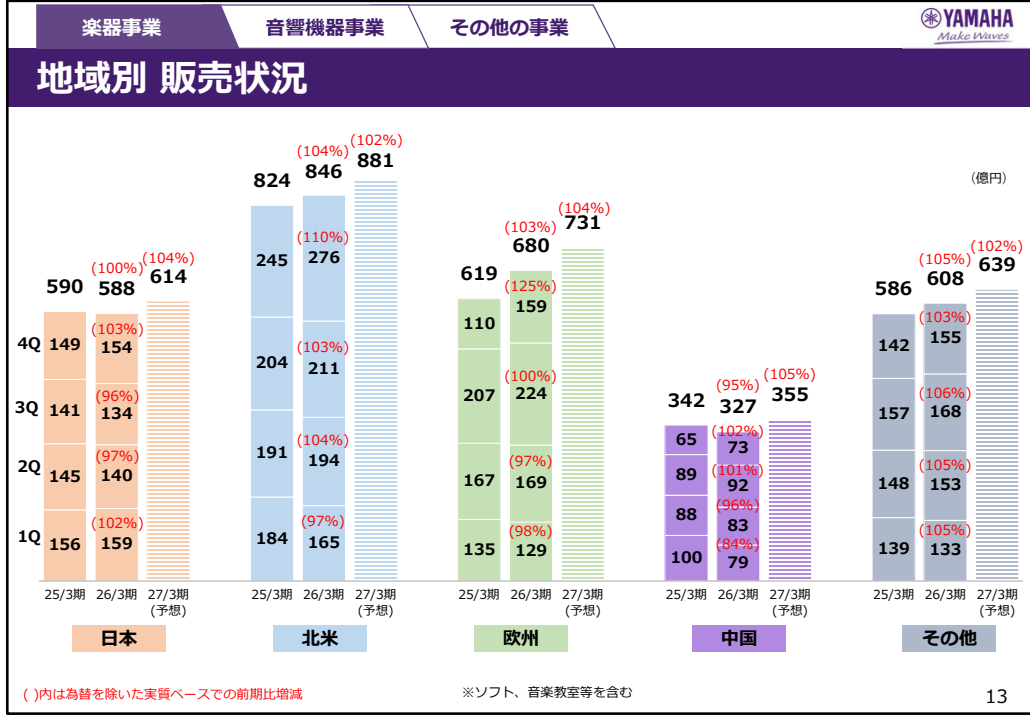


続いて、事業別の概要です。まずは楽器事業です。
 26年3月期は、ピアノを除く全カテゴリーで増収となりました。
 ピアノは中国が下期増収に転じるも高額品需要が弱く減収、電子楽器は各種新商品の評価が高く増収、管弦打楽器は需要堅調で増収、ギターは北米・新興国で着実にシェアを拡大し2桁の増収となりました。

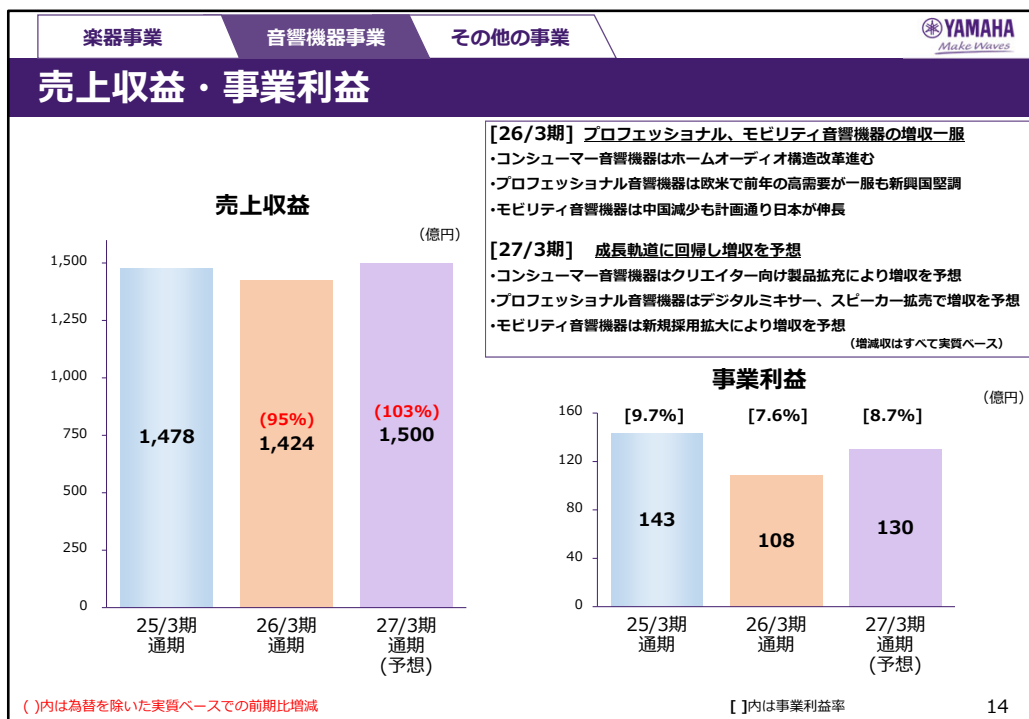
27年3月期は、全商品・地域で増収を予想しています。
 ピアノはアップライトピアノの新シリーズ投入による販売増、電子楽器はトップシェアを堅持、管弦打楽器は堅調な需要の継続を見込んでおり、ギターも前期からのさらなる成長を予想しています。



こちら、主要商品の販売状況となります。
 中国市場の縮退による売上減が続いていたピアノについては、26年3月期の第4
 四半期で対前年プラスに転じております。
 その他については改めて資料の内容をご確認ください。



地域別の販売状況についても改めて資料の内容をご確認いただければと思います。



続いて音響機器事業です。

26年3月期はプロフェッショナル音響、モビリティ音響機器への需要が一服したことにより減収となりました。

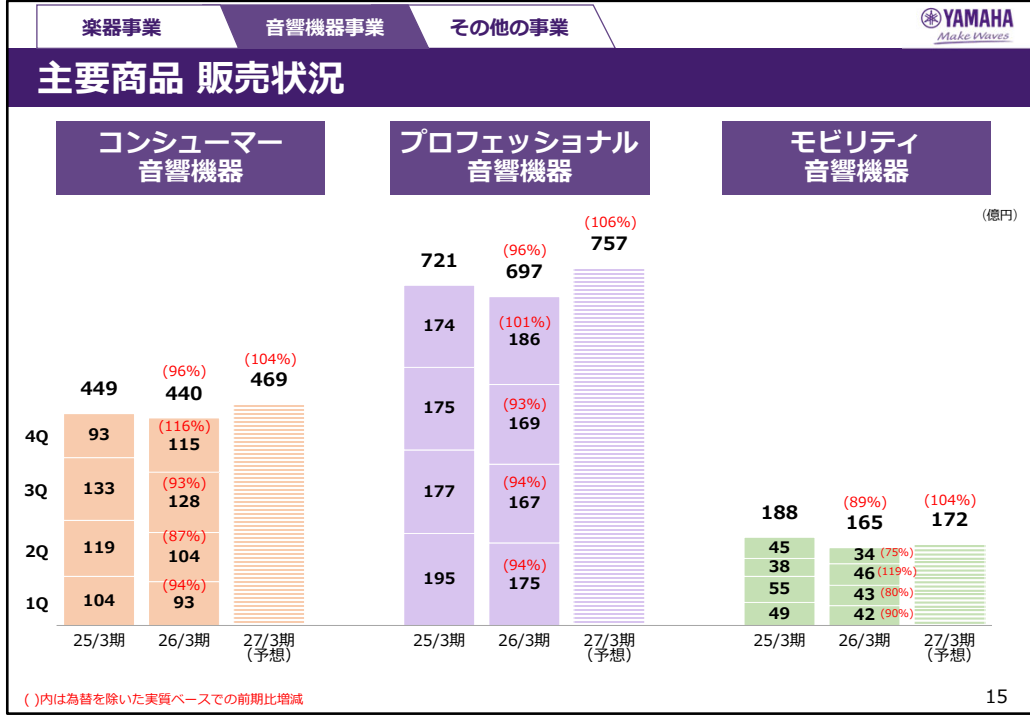
コンシューマー音響機器はホームオーディオの構造改革が進捗しました。

プロフェッショナル音響機器は欧米で前年の高需要一服となった一方、新興国が堅調な伸びを示しています。

また、モビリティ音響機器は中国で売上減少となるも計画通り日本でのビジネスが伸長しました。

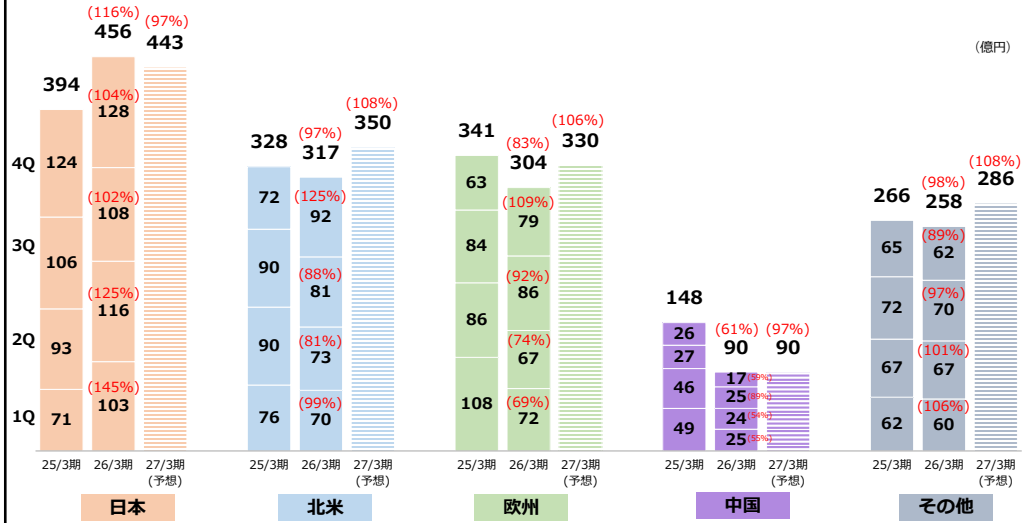
27年3月期については、成長軌道に回帰し増収を予想します。

コンシューマー音響機器はクリエイター向け製品の拡充、プロフェッショナル音響機器はデジタルミキサー、スピーカーの拡売、またモビリティ音響機器では新規採用の拡大によりそれぞれ増収を予想しています。

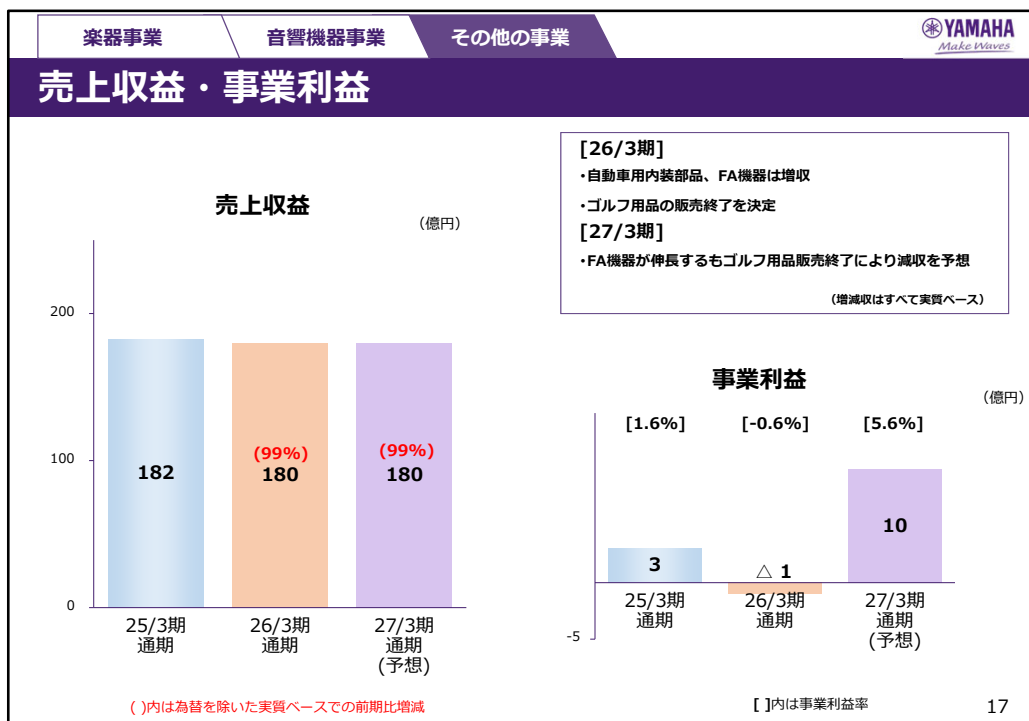


主要商品の販売状況、地域別の販売状況については改めて資料の内容をご確認ください。

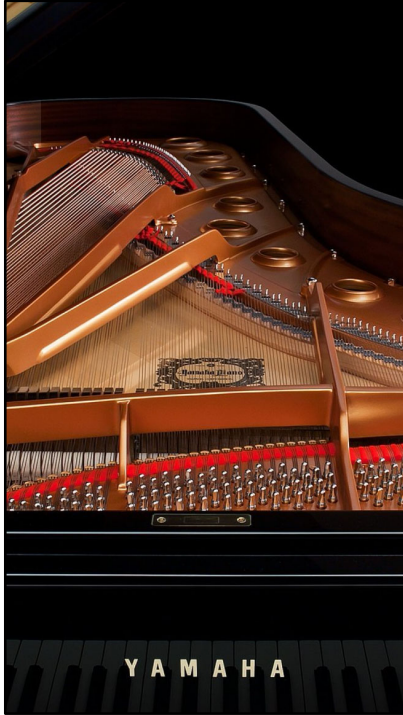
地域別 販売状況



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



その他の事業については、26年3月期は自動車用内装部品、FA機器で増収、一方ゴルフ用品事業については終了することを決定いたしました。27年3月期については、FA機器の伸長を見込む一方、ゴルフ用品販売終了により若干の減収を予想します。

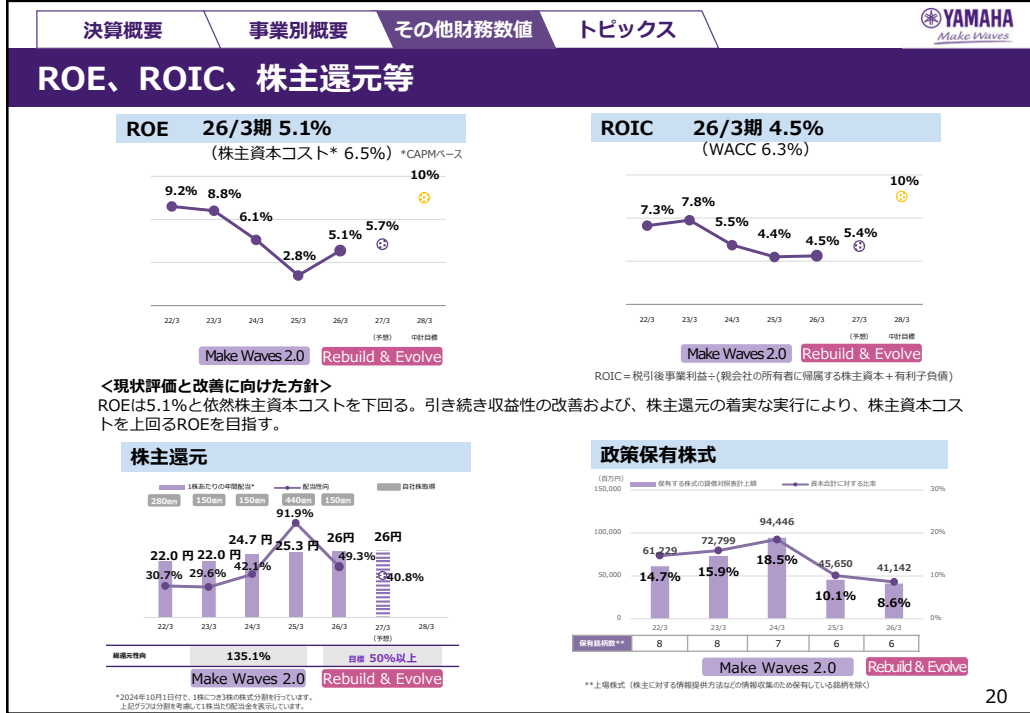


3. その他財務数値

| 決算概要 | | 事業別概要 | | その他財務数値 | | トピックス | |
|----------------------|--|--------------|--------------|------------|--|---------------|--|
| YAMAHA Make Waves | | | | | | | |
| 貸借対照表 | | | | | | | |
| | | | | | | (億円) | |
| | | 25/3末 | 26/3末 | 増減 | | 27/3末 (予想) | |
| 現金及び現金同等物 | | 998 | 1,090 | 91 | | 1,401 | |
| 営業債権他 | | 873 | 877 | 4 | | 899 | |
| その他金融資産 | | 52 | 42 | △10 | | 43 | |
| 棚卸資産 | | 1,505 | 1,523 | 18 | | 1,460 | |
| 他流動資産 | | 91 | 118 | 27 | | 38 | |
| 非流動資産 | | 2,393 | 2,526 | 133 | | 2,580 | |
| 資産計 | | 5,913 | 6,176 | 263 | | 6,420 | |
| 流動負債 | | 1,067 | 980 | △87 | | 1,012 | |
| 非流動負債 | | 345 | 398 | 53 | | 412 | |
| 資本計 | | 4,501 | 4,797 | 296 | | 4,996 | |
| 負債及び資本計 | | 5,913 | 6,176 | 263 | | 6,420 | |

続いて、その他の財務数値です。こちらは貸借対照表となります。現金及び現金同等物は前期末に対して91億円増加の1,090億円となりました。これは税引前利益による増加、そして自己株式の取得による減少、その他の要因によるものとなります。

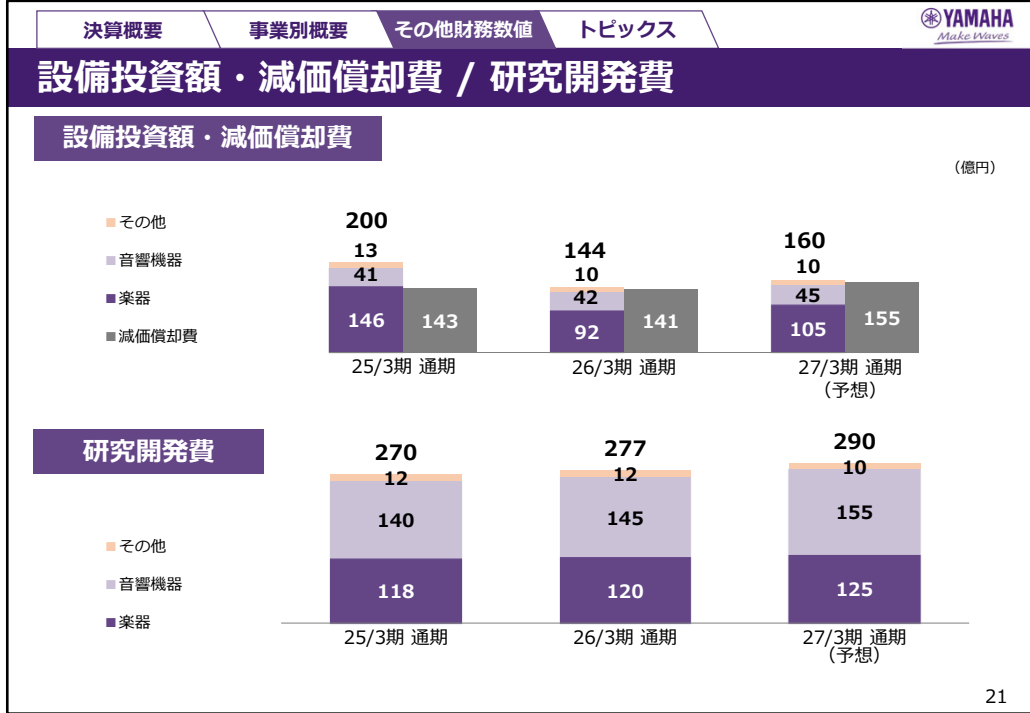
棚卸資産は前期末に対して18億円増の1,523億円となりましたが、為替影響の116億円を除くと、製品、仕掛品、部材ともに減少しています。引き続き、棚卸資産の圧縮に取り組み、27年3月末は1,460億円を想定しています。その他については資料の内容をご確認ください。



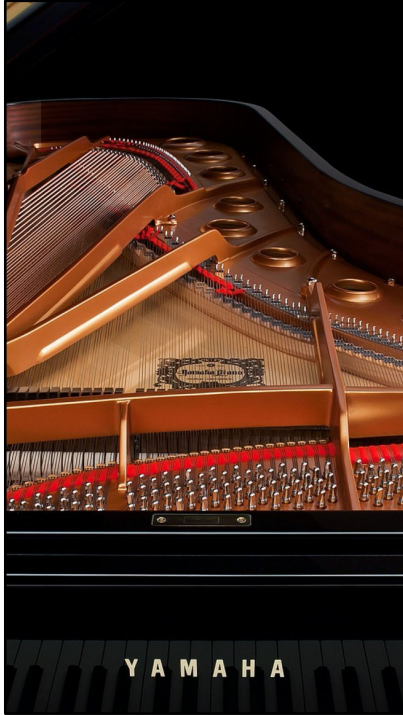
26年3月期のROEは5.1%となり、前年からは2.3%程上昇しました。27年3月期は5.7%を見込んでおりますが、こちらについては引き続き株主資本コストの6.5%を下回ることになります。収益改善と株主還元を着実に実行し、まずは株主資本コストを上回るROEを目指してまいります。

配当は、27年3月期予想として26円です。

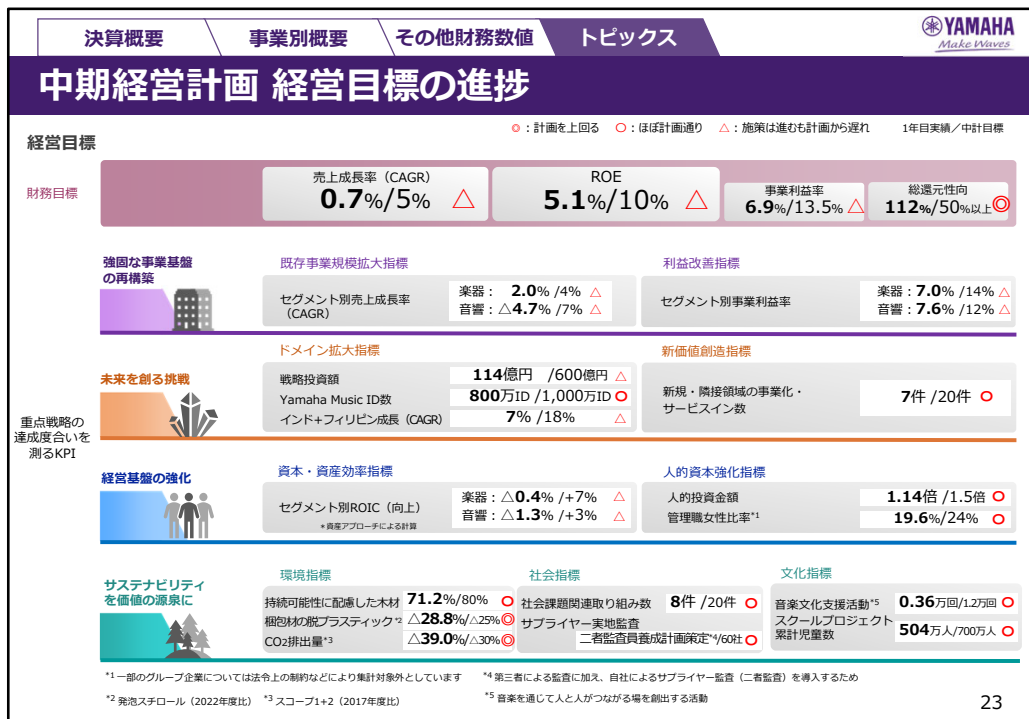
また、政策保有株式については、25年3月期末の10.1%から、26年3月期末は8.6%まで縮減しました。今後も中期の中で更なる縮減を進めてまいります。



設備投資額・減価償却費/研究開発費については、改めて資料の内容をご確認ください。



4. トピックス



ここからは前期のトピックスについて簡単にご紹介いたします。昨年度は新しい中期経営計画「Rebuild & Evolve」の初年度でした。ここでは中計で掲げた、財務、非財務の経営目標に対する進捗状況をまとめています。

数値はいずれも、スラッシュの左側が昨年度末時点での数字、右側が中計3年目末時点での目標数字となります。

売上成長率とROEについては外部環境の影響もあり計画を下回っていますが、その他の目標については概ね順調に進捗しています。

お客様とのつながりを創る施策の一つであるYamaha Music IDについては顧客基盤としての実効性を高める取り組みが着実に進んでおり、他にも持続可能性に配慮した木材利用の推進、スクールプロジェクトによる音楽教育普及等で着実な前進を見せています。

決算概要 / 事業別概要 / その他財務数値 / トピックス

YAMAHA
Make Waves

中期経営計画 重点テーマ

強固な事業基盤の再構築

ピアノ

製造固定費削減率
1年目実績 **△23%**
中計目標 △10%

中高級製品売上構成比
1年目実績 **+1%**
中計目標 +5%


- 生産拠点再編は計画通り進捗
Yamaha Indonesia閉鎖完了、主要モデルの生産移管が順調に進む
- 専門家・トップアーティストとの関係強化
Yamaha Artist Services Europe Paris開設

YAMAHA ARTIST SERVICES
株式会社

ギター

原価削減率
1年目実績 **△6%**
中計目標 △10%

- 製法改革の推進により収益改善が進捗
固定費削減進めるとともに、ものづくり力と競争力の強化を推進
- アーティストモデルのラインアップ拡大や情緒的価値追求で中高級品販売拡大
中高級品の売上は対前年+15%、普及価格帯伸長により構成比率は△0.4%
- シェア拡大を通じた売上成長
北米：主力ディーラーとのパートナーシップを強化
インド：製販一体体制を活かし、新カラーを迅速に市場投入
Line 6：新製品Helix Stadiumが大ヒット




インド製アコースティックギター カラーバリエーションモデル / Line 6 Helix Stadium XL

中国

事業ポートフォリオの再編進む
ピアノ市場低迷は下げ止まり、数から付加価値訴求へ転換。管弦打楽器、ギター、音響機器での成長を目指す


中国楽器事業 四半期別売上成長率
対前年増減率に対前年成長率



2022年3月期: -33%
2022年6月期: -22%
2022年9月期: -18%
2022年12月期: -18%
2023年3月期: -16%
2023年6月期: 1%
2023年9月期: 2%
2023年12月期: 5%

Make Waves 2.0 / Rebuild & Evolve

- 趣味・娯楽層へのアプローチ強化
シニア層に向けて、老年大学におけるギター、ポータブルキーボードの教室開校進む
- 動画×ライブ配信×ECを融合した抖音(Douyin)公式旗艦店デジタル完結型のタッチポイント拡大が進む



ホームオーディオ

原価削減率
1年目実績 **△6%**
中計目標 △25%

- 収益改善が進捗
趣味層向けに商品ポートフォリオを絞り込み、販売地域を集約することで販売管理費を削減
- ODM活用の拡大と固定費削減が進展

昨年度は中計の一つ目の柱「強固な事業基盤の再構築」に多くのエネルギーを注ぎました。

ピアノ事業では、インドネシア生産拠点の閉鎖に伴うモデルの生産移管が急ピッチで進み、これを計画通り完了しました。

ギター事業では、製法改革による固定費の削減、原価の低減、中高級品の販売拡大などが大幅に進捗し、計画に対して前倒しで収益の改善が進みました。

また、中国市場においては趣味、娯楽層へのアプローチの強化が進んでいます。

決算概要 / 事業別概要 / その他財務数値 / **トピックス**

YAMAHA
Make Waves

中期経営計画 重点テーマ

未来を創る挑戦

モビリティ音響

- ・車載オーディオは順調に新規採用獲得
中国自動車メーカー縮小、6社18モデルに搭載
- ・音声ソリューションも堅調
日系自動車メーカーの採用拡大

モビリティ音響機器 売上高推移 (億円)

| 期 | 中国 | 日本 | その他の地域 | 合計 |
|--------------|-----|----|--------|-----|
| 22/3期 | 114 | | | 114 |
| 23/3期 | 139 | | | 139 |
| 24/3期 | 147 | | | 147 |
| 25/3期 | 188 | | | 188 |
| 26/3期 | 165 | | | 165 |
| 27/3期 (予想) | 172 | | | 172 |
| 28/3期 (中計目標) | | | | 230 |

*25/3期までは電子デバイス事業

ミュージックコネクト

- ・YAMAHA MUSIC SCHOOL ONLINE
日本稼働中、欧州・北米等グローバルに展開準備
- ・メンバーシッププログラム運用開始
Yamaha Music IDを通じて一人一人にあった音楽体験を提供。欧州開始

新規事業開発

- ・新規事業開発の注力領域を設定
ベニュー、バーチャルエンターテインメント、クリエイター事業を注力領域と位置づけ、これらを軸とした事業ポートフォリオ確立を目指す

i-Pairs Inc.
アイペアーズ株式会社
バーチャルエンターテインメント事業拡大に向け出資

- ・新規事業創出メカニズムの構築進む
新規事業開発のプロセスとリスク管理体制を整備
- ・オープンイノベーションの取り組み強化
グローバルビジネスコンテスト TRANSPOSE Innovation Challengeを開催。63カ国より参加
- ・クリエイター向けプラットフォーム事業立ち上げ
Yamaha Creator Pass、21社と提供開始

インド

売上3年 CAGR
1年自実績 **+9%**
中計目標 +13%

- ・楽器の顧客基盤拡大
インド製モデルの価格競争力・供給力を活かした販売拡大を進める

重点市場と位置づけ戦略投資を実施
バンガロールに**エクスパリエンスセンター**を開設し、音響機器マーケティングを強化

- ・音楽需要創造活動
スクールプロジェクト導入校拡大、Trinity College Londonと音楽教育拡大に向けた戦略的協業を開始
- ・世界的音楽家をブランドアンバサダーに起用
A.R. ラマーン氏と共にインド音楽文化の発展と次世代の音楽人材の育成に取り組む

中計二本目の柱である「未来を創る挑戦」については、新規事業開発において、オープンイノベーションの取り組みが急速に進んでいます。ビジネスコンテストとして新たに立ち上げたTranspose Innovation Challengeには、実に63か国から300件を超えるビジネスアイデアが寄せられました。またこの3月には、多くのパートナーによる幅広いサービスをワンストップで提供するサブスクリプションサービス「Yamaha Creator Pass」を立ち上げました。「外部のリソースを活用したスピード感ある事業開発」が進んでいます。

| 決算概要 | 事業別概要 | その他財務数値 | トピックス | |
|---|---|---|--|---|
|  <small>Make Waves</small> | | | | |
| <h2>中期経営計画 新商品・サービス</h2> | | | | |
| 技術×感性で磨く本質的価値を追求した期待の新商品・新サービス | | | | |
| グランドピアノ  C3X espresso | エレクトーン  Electone STAGEA ELS-03シリーズ | ポータブルキーボード  PSR-E483 PSR-I610/1510 <small>インド専用モデル</small> | シンセサイザー  MODX Mシリーズ | アコースティックギター エレキギター  60周年記念モデル RSP20B 60TH FG9 60TH |
| エレキギター  Pacifica SC | ギター用アンプ/エフェクト プロセッサ  Helix Stadium XL Floor | エレクトロニックアコースティック ドラムモジュール  EAD50 | ヘッドホン  YH-4000 YH-C3000 | コンデンサーマイク  YCM705 |
| 音楽制作機器  MGX/URXシリーズ CC1 | 音楽制作ソフト  CUBASE 15 Omnivocal | 無線LANルーター  NWR100 | クリエイター向け 統合型プラットフォーム  Yamaha Creator Pass | 演奏支援アプリ  Extrack Tuner for Guitar METRONOME |
| 26 | | | | |

このスライドには、昨年度リリースした新商品、新サービスの一部をまとめました。

ハードウェア単体で、あるいはソフトウェア・サービスとの連携によって、演奏・創造・学習・つながりといった音楽体験を提供する多くの新商品をリリースしました。



「経営基盤の強化」については、課題事業に向けた迅速な取り組みと成長事業への積極的な投資が行われるようポートフォリオマネジメントを着実に実行しています。

サステナビリティへの取り組みについては、「おとの森」プロジェクトでインドでのローズウッド資源保全が本格化し、またスクールプロジェクトでも、インド、フィリピン、エジプトでパイロット展開の準備が進みました。

決算概要
事業別概要
その他財務数値
トピックス
 YAMAHA
Make Waves

社外からの評価

GPIFが採用する6本全てのESG指数に選定

FTSE Blossom Japan Index
 FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
 MSCI日本株ESGセレクトリーダーズ指数
 S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数
 MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)
 Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt (GenDi J)

FTSE Blossom
Japan

FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2026 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

2026 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

MORNINGSTAR GenDi J
Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index

FTSE Blossom Japan Index and FTSE Blossom Japan Sector Relative Index are trademarks of FTSE Limited. MSCI ESG Select Leaders Index is a trademark of MSCI. S&P/JPX Carbon Efficient Index is a trademark of S&P Global. Morningstar GenDi J is a trademark of Morningstar. All rights reserved.

<https://www.yamaha.com/ja/sustainability/related-information/evaluation/>

Best Japan Brands 2026

12年連続選定* (US\$百万)

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | | | | |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| | | | | | | | | | |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| | | | | | | | | | |
| 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 |
| | | | | | | | | | |
| 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 |
| | | | | | | | | | |

* ヤマハ(株)とヤマハ発動機(株)の合同ブランド価値

ESG評価

S&P Global

Yamaha Corporation
Leisure Equipment & Products and Consumer Electronics

Sustainability Yearbook Member

Corporate Sustainability Assessment (CSA) 2025

56/100

MSCI ESG RATINGS

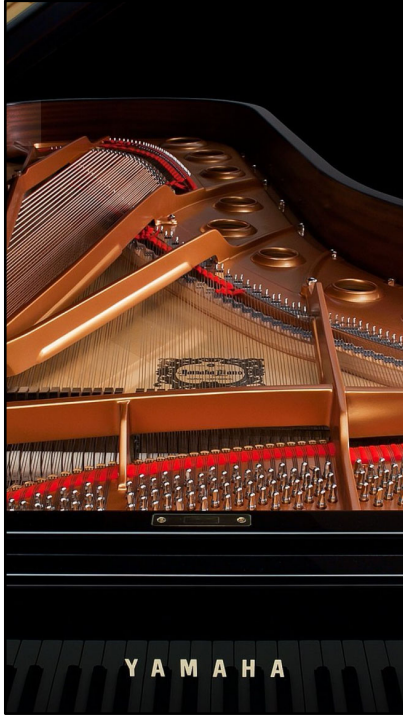
AAA

Corporate ESG Performance

ISS ESG Prime

28

最後に社外からの評価についてまとめていますが、こちらについては、改めて内容をご確認いただければと思います。
 私からのご説明は以上です。ありがとうございました。



付属資料

4Q 業績概要

(億円)

| | 25/3 | 26/3 | 前期比 | |
|----------------------------------|--------------|---------------------|-----|-------------------------|
| 売上収益 | 1,114 | 1,243 | 129 | +11.6% ^{*2} |
| 事業利益 (事業利益率) | 48 (4.3%) | 67 (5.4%) | 20 | +40.9% |
| 当期利益 ^{*1} | △9 | 35 | 45 | - |
| *1 親会社の所有者に帰属する当期利益 為替レート (円) | | | | *2 +6.3% (為替影響除く) |
| US\$ | 154 | 155 | | |
| EUR | 160 | 184 | | |

4Q 事業別実績

(億円)

| | | 25/3 | 26/3 | 前期比 | 為替影響 |
|--------|-------|------|-------|--------|------|
| 楽器事業 | 売上収益 | 712 | 816 | 105 | 41 |
| | 事業利益 | 37 | 49 | 11 | 15 |
| | 事業利益率 | 5.2% | 5.9% | +0.7P | |
| 音響機器事業 | 売上収益 | 350 | 378 | 28 | 18 |
| | 事業利益 | 8 | 23 | 15 | 3 |
| | 事業利益率 | 2.3% | 6.0% | 3.7P | |
| その他の事業 | 売上収益 | 52 | 49 | △3 | 0 |
| | 事業利益 | 3 | △4 | △6 | 3 |
| | 事業利益率 | 5.3% | △7.4% | -12.8P | |

31

通期 その他収支等

(億円)

| | | 25/3 | 26/3 | 27/3 (予想) |
|-----------------|----------|------------|------------|--------------|
| 事業利益 | | 367 | 319 | 380 |
| その他収益・ 費用収支 | 固定資産処分損益 | 4 | 7 | 0 |
| | その他 | △164 | △33 | 0 |
| | 計 | △160 | △26 | 0 |
| 営業利益 | | 207 | 293 | 380 |
| 金融収支計 | 受取配当金 | 26 | 16 | 19 |
| | その他 | △8 | 44 | △9 |
| | 計 | 18 | 60 | 10 |
| 税 前 利 益 | | 225 | 353 | 390 |
| 法人税等 | | △90 | △115 | △110 |
| 非支配株主利益 | | △1 | △1 | 1 |
| 当 期 利 益* | | 134 | 237 | 280 |

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、
ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、
この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。
従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、
米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、
これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。